

二、アブドウル・ラザク氏への授与式

## 1 アブドウル・ラザク氏への広島大学名誉博士号授与式

二〇一三年二月二五日、元南方特別留学生アブドウル・ラザク氏への広島大学名誉博士号授与式をマレーシア・クアラルンプール市内のホテルにて実施しました。

ラザク氏は、一九四四年に当時の南方特別留学生招聘事業により来日し、一九四五年四月に広島大学の前身の広島文理科大学に進学しました。しかしながら、同年八月六日に広島市内で被爆され九死に一生を得ましたが、勉強半ばにして帰国せざるを得ませんでした。

帰国後、マレーシアにおける日本語教育の発展に大きく貢献されるとともに、日本とマレーシアの友好関係の強化にも努めてこられました。また、自らの広島での体験を多くの人々に伝え、平和活動の推進にも貢献されました。これらの功績に対して、このたび、本学より名誉博士号を授与することとなりました。

授与式には、ラザク氏の親族、関係者、本学修了生をはじめとして約三〇人が出席しました。岡本哲治 広島大学理事・副学長からラザク氏に対して名誉博士記が授与された後、祝辞が述べられました。その後のラザク氏からの挨拶では、日本留学中は勉強だけでなく、日本人の辛抱強さや困難を克服する精神を学んだこと、そしてそのことは帰国後のラザク氏の生き方に大きな影響を及ぼし、今でも自分の体に残っていると述べられました。

続いて、来賓として出席いただいた在マレーシア日本大使館の松浦博司公使からの祝辞では、マレーシアの東方政策においてラザク氏がマラ工科大学における産業技術研修生の日本語予備教育の責任者を務められ、多くの研修生を日本に送り出したこと、さらに両国の友好関係の強化に努められたことに対する謝意が伝えられました。

最後に、親族を代表してラザク氏の長男でアルプハリ国際大学のズルキフリ・アブドゥル・ラザク副学長から、広島大学が父のことを忘れずに今回の名誉博士号の授与に至ったことに対して謝意が表明されました。

名誉博士候補者調書

フリガナ ハジ・アブドル・ラザク・ビン・アブドル・ハミド  
氏名 Haji Abdul Razak Bin Abdul Hamid  
出生地 ペナン島ジョージタウン

経歴・受賞等

一九四四年 南方特別留学生二期生として来日  
一九四五年 四月 広島文理科大学（特設科）進学  
八月 広島にて被爆  
一九四八年 スルタン・イドリス師範学校卒業  
一九四九年 セランゴール州小学校教師  
一九五五年 スルタン・イドリス師範学校講師  
一九六〇年 クアラルンプール語学研修所講師  
一九七七年 マラ工科大学インスティテュート講師  
一九八二年 同 ルック・イースト政策プログラム主任  
一九八三年 日本政府より勲四等瑞宝章を受章

業 績

ハジ・アブドル・ラザク・ビン・アブドル・ハミド氏は、一九四四年に当時の国費留学生制度であった南方特別留学生として来日し、一九四五年四月に広島大学の前身校である広島文理科大学に入学した。しかしながら、勉強半ばして同年八月六日に広島市内で被爆。奇跡的に難を逃れ、被爆に苦しむ広島市民の救助に尽力した。当時、広島文理科大学と一緒に学んでいた南方特別留学生のニツク・ユソフ氏とサイド・オマール氏は被爆死し、今も広島と京都で眠っている。後年、自らの被爆体験や広島での経験をマレーシア国内で伝え、平和活動の推進に大きく貢献した。

帰国後、同人はスルタン・イドリス師範学校に入学。一九五七年にマレーシアは英国からの独立を果たした。独立直後の同国では、国語となったマレー語教師が不足し、同人はマレー語教師としてマレー語を教えた。一九七六年には、国营テレビでジャウイ（マレー語を表記するアラビア文字）の番組に出演し、一躍有名になるとともに、マレー語の全国的な普及に大きく貢献した。

一九七八年にマラ工科大学インスティテュートのマレー語及び日本語の講師となる。一九八二年、マハティール首相が提唱したルック・イースト政策で、産業技術研修生の日本語予備教育が同大学で開始されると、そのプログラム の責任者に抜擢される。この時期から日本とマレーシアとの交流が活発化し、一九八三年の中曽根康弘元首相のマレーシア訪問の際に、同人の功績が認められ、勲四等瑞宝章の叙勲を受ける。

その後、一九九八年に同大学を退職し現在に至っているが、これまでの間、日本語教育者としてマレーシア国内の日本語の普及に努めるとともに、本学にも何度となく表敬訪問に訪れるなど両国の交流促進に多大な貢献をした。

以上のように、同人は日本とマレーシアの友好関係の強化に努めるとともにマレーシアでの日本語教育の発展にも多大に貢献した。また、被爆直後も広島市民の救助に尽力するとともに、帰国後も自らの被爆体験や本学での経験をマレーシア国内で伝え、本学の基本理念の一つである「平和を希求する精神」の実現に大きく貢献しており、本学の教育・研究並びに国際交流の推進に寄与した功績は極めて顕著であり、本学の名誉博士号の称号を授与すべき候補者として推薦するものである。

以上

広島大学名誉博士号授与の記録



・  
・  
・

## 2 岡本 哲治 広島大学理事・副学長からの挨拶

ラザク先生、この度は本当におめでとございます。

本学の名誉博士号を授与するにあたりまして、広島大学を代表して謹んでご祝福申し上げます。本来であれば学長が出席させていただくところですが、やむを得ない公務のため私が代わりましてご挨拶させていただきます。

また、在マレーシア日本大使館・松浦博司公使、アルプハリ国際大学ズルキフリ・アブドウル・ラザク副学長をはじめとする多くの方々にご列席いただき誠にありがとうございます。

ラザク先生におかれましては、一九四四年に日本に留学され、一九四五年四月に広島大学の前身校である広島文理科大学に進学されました。しかしながら、人類史上類をみない恐ろしい災禍により、ラザク先生をはじめとする多くの人々が想像を絶する苦しみを経験されました。そのような状況においても、当時、広島文理科大学に在籍して奇跡的に難を逃れた留学生のみなさまは、災禍に苦しむ広島市民の救助のために尽力されました。このことに対して、私は広島市民に代わりましてあらためて心よりお礼申し上げます。

ご帰国後は、マレーシアにおける日本語教育の発展に大きく貢献されるとともに、日本とマレーシアの友好関係の強化にも努めてこられました。また、自らの広島での経験を多くの人々に伝えられ、平和活動の推進にも貢献されました。これらの輝かしい功績に敬意を表して、今般、名誉博士の称号を授与させていただくこととしました。

また、ラザク先生は、勉学を志して日本に留学をされましたが、志半ばでご帰国せざるを得なかったことは誠に



無念であったことかと存じます。その意味でも本日ここに、かつての学び舎である広島文理科大学を母体として創設されました広島大学から名誉博士の称号を授与させていただくことを大変喜ばしく思っております。

現在、広島大学は、一一学部、一一研究科、大学病院などを有する日本でも有数の総合大学へと発展しました。私どもはラザク先生をはじめとする多くの諸先輩方が築き上げられてきた誇りを継承するとともに、また、人類史上最初の被爆地である広島の地に新たに生まれ変わった大学として、基本理念の一つに「平和を希求する精神」を掲げて、平和活動の推進にも力を入れております。二〇一一年からは本学に入学する全ての学部学生を対象に平和科目を必修科目にして、授業を通じて絶えず平和について考えさせる機会を作っております。

私どもは、ラザク先生が広島で抱かれた勉学への志や平和への思いを風化させることなく、本学の若い学生たちにも伝え続けて、更なる発展を続けていく所存ですので、今後ともお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

最後となりましたが、これからのラザク先生のご健康とご活躍を祈念し、私の挨拶の言葉とさせていただきます。

この度は誠にありがとうございます。

### 3 アブドウル・ラザク氏からの挨拶

広島大学理事・副学長 岡本 哲治様、在マレーシア日本国大使館公使 松浦 博司様はじめ関係の皆様には、本日は私のために広島大学名誉博士称号授与式を開催していただき、心よりお礼申し上げます。

また、これまで私を支えてくださった皆様にも、お忙しい中、おこしいただきありがとうございました。

思えば、一九四二年に日本語学習を始め、三ヶ月後にセランゴール州文教科の日本語教育コーディネーターに任命されたのが私の日本語教育とのかかわりのスタートです。そして、マラヤ興亜訓練所での研修を経て、一九四四年に日本の南方特別留学生に選ばれました。東京の国際学友会で日本語教育を受けた後、一九四五年に当時の広島文理科大学、現在の広島大学に入学させていただきました。当時のことが今でもつい最近のことのように思い出されます。八月六日、授業中に被爆し、心ならずも学業半ばでマレーシアに帰国することになってしまいました。

日本留学で学んだことはたくさんありますが、「負けずにがんばる精神、困難にくじけない精神」は今でも私の体に染みついているように思われます。また、国歌の斉唱や国旗掲揚を通じて国を愛することの大切さも日本から学びました。

マレーシアに帰国後も、日本で学んだ精神、さらにはまわりの多くの人々の支えもあって日本語教育にずっと携わることができました。

広島大学名誉博士号授与の記録

本日は、広島大学の名誉博士称号をいただきましたが、このことがこれからマレーシアを支えていく後輩の皆さんの励みになり、美しい日本語を学びながら日本とマレーシアの交流をさらに発展させていくことを願っています。

最後に、私に名誉博士称号を与えてくださった広島大学に改めて感謝申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。  
ありがとうございます。

#### 4 松浦 博司 在マレーシア日本国大使館公使からの挨拶

本日は、アブドゥル・ラザク様の広島大学名誉博士号授与式にお招きいただき、誠にありがとうございます。

まずはじめに、アブドゥル・ラザク様におかれては、戦時中、広島での過酷なご経験をなされましたが、それに関わらず、長らくの日馬の友好、世界の平和のためにご活躍されました。それらのご活躍により、本日ここに、広島大学の名誉博士号を授与されることに敬意を表するとともに、ご祝福申し上げたいと思います。

皆さんご承知のとおり、一九八二年にマハティールが提唱した東方政策は、昨年、三〇周年を迎えました。同政策においては、これまで約六、〇〇〇人の留学生と約八、〇〇〇人の研修生を日本に送り出しています。

これにより、現在のマレーシアと日本の強固な関係が築かれていることは言うまでもありません。アブドゥル・ラザク様は、戦中に日本へ留学された日本留学の草分け的存在であるのみならず、東方政策の創設期において、マラ工科大学に置かれた産業技術研修生の日本語予備教育の責任者を務めるなど、東方政策の実施を支えて来られました。沢山の後輩達を育成し、マレーシアと日本の友好に貢献されてきたことに心から感謝申し上げます。

また、戦時中、非常に苦しいご経験をなされ、その体験をマレーシア及び日本で語り、伝えられていることは、世界の平和に繋がる大変大きな取り組みであります。平和都市広島の広島大学の名誉博士に相応しいご功績だと思

います。

世界の情勢も大きく変わってきており、東方政策も次のステージに向かっています。この変革の時代に、変わらぬ世界平和とマレーシアと日本の更なる友好のために、今後とも、若い人たちを指導していただきたく、よろしくおねがいします。アブドゥル・ラザク様のご健康とご活躍を祈念いたします。

最後になりましたが、広島大学におかれては、名誉博士号の授与というご英断をなされたことに敬意を表します。今後、貴大学とマレーシアの繋がりが益々強くなることを期待しますとともに、貴大学がますますご発展されることを祈念し、私のあいさつとさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

## 5 ズルキフリ・アブドウル・ラザク氏からの挨拶

在マレーシア日本国大使館公使 松浦 博司様、広島大学理事・副学長 岡本 哲治様、この度、名誉博士号が授与されることとなりましたアブドウル・ラザク先生、広島大学からご参加の皆様や同窓生の皆様をはじめとして関係の皆様、アブドウル・ラザクの親族を代表して、敬愛する父の人生の晴れ舞台である本日の授与式にご参加いただき、皆様には誠に感謝申し上げます。

特に、このような名誉ある称号を与えて下さった広島大学の寛大なご配慮に感謝いたします。この称号は、父が数十年に渡って全力を捧げてきた教育・職業生活において最高の栄誉となることでしょう。私たち家族は、父の教育分野における献身的な姿にいつも感銘を受け、人生の模範としたいと考えてきました。ラザク先生の教え子たち、特に一九八二年からの東方政策において父が創設責任者を務めた集中日本語コースの学生もきつと同じ気持ちだと信じています。

私たち家族は、この慶事に参加することができ本当に光栄に思うとともにラザク先生のこれまでの業績を大変誇りに感じています。私も家族を代表してラザク先生の名誉博士号授与に対して心から祝福する次第です。また、母校である広島大学が、父のことを忘れないでいたことに大変心を打たれました。残念ながら広島大学での教育課程を終えることができなかつたのですが、この名誉博士号は父が広島大学で学位を取りたいという長年の夢がかなっ

たものだと信じています。広島大学は、父がおよそ七〇年前に一八歳という若さで人生の意味を教えてくださいました。大切な場所です。

最後に、敬愛する父、アブドウル・ラザク先生を祝福するために皆様のご臨席を賜り誠にありがとうございました。特に、イタリア・トレント大学カルラ・ロカッテリ副学長におかれましては本日の授与式に出席するためにマレーシアでの滞在を延長して下さったことに感謝申し上げます。

これから先のすべての人類の平和のために共に努力し続けていきたいと思います。そのためには教育は最も有力な手段の一つであると思います。

アブドウル・ラザク先生および親族一同から広島大学に対して重ねてお礼申し上げます。

このたびは誠にありがとうございました。